

中国海軍艦艇による火器管制レーダーの照射事案

【事実関係】

- 平成25年1月30日(水)午前10時頃、東シナ海の公海上で警戒監視中の海上自衛隊護衛艦「ゆうだち」が、中国海軍艦艇「ジャンウェイⅡ級フリゲート」から、火器管制レーダーの照射を受けた。
- なお、1月19日(土)午後5時頃、同じく東シナ海の公海上において、警戒監視中の海上自衛隊護衛艦「おおなみ」搭載ヘリに対する、中国海軍艦艇「ジャンカイⅠ級フリゲート」からの火器管制レーダーの照射が疑われる事案が発生している。

【評価】

火器管制レーダーの照射は、基本的に、火器の使用に先立って実施する行為であり、これを相手に照射することは不測の事態を招きかねないものであり、危険な行為であると認識。

【我が国の対応】

こうした行為が短期間のうちに立て続けに行われた可能性が高いことを踏まえ、2月5日に外交ルートを通じて中国側に申入れを行うとともに、防衛省から本件について公表を実施。

【中国の反応】

- 「中国側の艦載レーダーは正常な警戒と監視活動を続けていたが、火器管制レーダーは使用していない」(中国国防省HP掲載:2月8日)

【米国の反応】

- 米国は、本事案について「このような行動は緊張を高め、事故又は誤算の危険性を増し、更には地域の平和、安定及び経済成長を台無しにしかねない」(2月5日、国務省定例会見)、「我々は同盟国・日本から説明を受け、同事案が実際に発生したと納得するに至った」(2月11日、国務省定例会見)との見解を表明。

ジャンウェイⅡ級フリゲート(522)



ジャンカイⅠ級フリゲート(526)



火器管制用レーダーアンテナ

参考画像



北朝鮮「ミサイル」発射への対応の経緯(平成24年12月)

12月 1日 北朝鮮が、12月10日から同月22日までの間に、同国西部の発射場から南側方向へ「地球観測衛星」を発射する旨発表。

総理・官房長官・外務大臣・防衛大臣による4大臣会合を開催。

防衛大臣が、「弾道ミサイル等に対する破壊措置等の準備に関する自衛隊一般命令」を発出。

12月 7日 安全保障会議を開催。

防衛大臣が、自衛隊法第82条の3第3項に基づき、「弾道ミサイル等に対する破壊措置等の実施に関する自衛隊行動命令」を発出。

12月 8日 航空総隊司令官から防衛大臣に対し、BMD統合任務部隊の態勢準備完了を報告。

12月10日 北朝鮮が「地球観測衛星」の発射予定期間を29日まで延長する旨発表。

12月11日 「弾道ミサイル等に対する破壊措置等の実施に関する自衛隊行動命令」の終了の期日を29日まで延長。

12月12日 北朝鮮が「人工衛星」と称するミサイルを発射。

防衛大臣が撤収命令(「弾道ミサイル等に対する破壊措置等の終結に関する自衛隊行動命令」等)を発出。

中国軍機による自衛隊機への接近について①

【事実関係】

- 昨年5月24日(土)午前11時頃及び12時頃、東シナ海の公海上空において、それぞれ海上自衛隊のOP-3C及び、航空自衛隊のYS-11EBが、中国軍の戦闘機Su-27×2機による異常な接近を受けるという事案が発生した。
- なお、領空侵犯は発生しておらず、自衛隊機及び隊員への被害はない。

【評価】

我が国周辺海空域における偶発的事故の発生に繋がりがねない危険な行為であったと認識。

【我が国の対応】

今回の事案の発生を受け、政府としては、外交ルートを通じて、中国側に嚴重抗議を行うとともに、防衛省から本件について公表を実施。



YS-11EB(電子測定機)



OP-3C(画像情報収集機)

中国軍機による自衛隊機への接近について②

【事実関係】

- 昨年6月11日(水)午前11時頃から12時頃にかけて、東シナ海の公海上空において、航空自衛隊のYS-11EB及び海上自衛隊のOP-3Cが、中国軍の戦闘機Su-27×2機による異常な接近を受けるという事案が発生した。
- なお、領空侵犯は発生しておらず、自衛隊機及び隊員への被害はない。

【評価】

我が国周辺海空域における偶発的事故の発生に繋がりがねない、決してあってはならない危険極まりない行為であると認識しており、こうした行為が繰り返し行われていることは誠に遺憾。

【我が国の対応】

今回の事案の発生を受け、政府としては、外交ルートを通じて、中国側に改めて嚴重抗議を行うとともに、防衛省から本件について公表を実施。



YS-11EB(電子測定機)



OP-3C(画像情報収集機)

北朝鮮による核実験(16年1月6日)について

- 北朝鮮は、2016年1月6日、4回目となる核実験を実施。
- 過去北朝鮮は、2006年10月、2009年5月、2013年2月にそれぞれ核実験を実施。

北朝鮮が発表した声明の概要

- 2016年1月6日10時、朝鮮の**初の水爆実験を成功裏に実施**。
 - 我々の知恵、技術、力に100%依拠した今回の実験を通じ、**我々は新しく開発された試験用水爆の技術的諸元が正確であることを完全に立証し、小型化された水爆の威力を科学的に解明**。
 - 安全かつ完璧に行われた今回の試験用水爆の実験は、周囲の生態環境にいかなる否定的影響も与えなかったということを確認。
- 出典：朝鮮中央テレビ(1月6日 12:30)



観測された地震の規模及び推定出力

※いずれも震源地は北朝鮮北東部・豊溪里(プンゲリ)周辺

	2006年10月	2009年5月	2013年2月	2016年1月
地震の規模 (CTBTO発表の値)	M4. 1	M4. 52	M4. 9	M4. 85
推定される出力	約0. 5～1kT	約2～3kT	約6～7kT	約6～7kT

今回の核実験の
推定出力は**前回**
と**概ね同じ規模**

各国が保有する水爆が搭載されているとみられるミサイル (一例)

出典：ジェーンズ、SIPRI

米国	ロシア	中国	イギリス	フランス	(参考)長崎型原爆
ミニットマンⅢ	RS-24	DF-21	トライデントD5	M51	ファットマン
475kT	250kT	500kT	100kT	150kT	21kT
					